

ごあいさつ

組合員・利用者の皆様には、日頃よりJAいしのまきの事業運営に対し格別のご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

このたび、当JAの経営方針や事業・財務状況をはじめ、JA自己改革の取り組みなどを紹介した「ディスクロージャー誌2020」を発行いたしました。ぜひ、ご高覧いただき当JAへのご理解を深めていただければ幸いに存じます。

さて、JA事業を取り巻く環境は、米の需要減少、組合員の高齢化、日銀のマイナス金利政策の影響、日米貿易協定発効による農畜産物の関税削減・撤廃が掲げられ、非常に厳しい情勢となっています。さらには昨年台風19号や豪雨が相次ぎ、管内農業も甚大な被害を受けました。新型コロナウイルス感染症の収束も見えない状況にあります。このような中、令和元年度は第6次中期経営計画の初年度として事業に取り組み、組合員ニーズに応えられる営農指導・販売体制を強化してまいりました。また、当JA独自で創設した農業振興基金を活用した「農業振興支援対策事業」に取り組み、生産規模拡大を目指す農業者などに対し積極的に支援対策を講じ、農業者の所得増大に向け取り組んでまいりました。

基幹作物である稲作は、安全・安心を担保する生産工程管理(JA版GAP)等の履歴管理体制によって販売先である卸や実需者から高い評価を得ました。園芸は、農業振興基金や補助金などの活用による生産基盤の強化、直売所でのキャッシュレス決済導入により新たな顧客確保に取り組みました。加えて、JAいしのまきやもと野菜組合が手がけた「仙台白菜」が新天皇即位に伴う大嘗祭の献上品に選ばれ大変な栄誉に輝き、今後の生産に対する大いなる励みとなりました。畜産では、和牛改良推進組合の「育種組合」への昇格を目指し各種共進会において上位入賞を果たし、令和4年開催の第12回全国和牛能力共進会へ向けた、繁殖雌牛群の整備に取り組みました。

事業運営では、JAの強みである総合事業を展開し、健全な経営・財務基盤の確立に努め、事業利益3億27百万円、当期末処分剰余金6億17百万円を計上することができ、財務状況も自己資本比率14.00%と基準を大きく上回る経営を実現できたのは、組合員・地域住民皆様のJA活動への参加とJA事業のご利用によるものと深く感謝申し上げます。

令和2年度は、経営基盤強化に向け、4つの経営方針を柱に「農業者の所得増大」、「農業生産の拡大」、「地域の活性化」の実現へ、さらなる自己改革に取り組み総合事業を着実に実践して参ります。新型コロナウイルス感染症の影響は、今後の事業においてもはかりしれず厳しい状況が続くと思われまます。コロナ禍の今こそ協同組合運動の原点に立ち返り、組合員一人ひとりの英知と力を結集し、地域に根差した「JAいしのまきブランド」を皆様とともに築いて参りますので、何卒、今後ともなお一層のご協力・ご理解の程を賜りますようお願い申し上げます。

令和2年7月



 いしのまき農業協同組合

代表理事組合長 **松川孝行**